

評書

いい不天氣だ さぞかし散髪白りたりう  
 そろと去調をゆか下ろ ちよつとくしゆりか  
 のある室氣だ 正しくても困るし砂漠の  
 相に乾燥 ~~無~~しとも困る  
 丁度いい不天氣だ この不景 家の中にいる  
 9はむつていぢい  
 と言つても外へはいいかぬさし やけろころ下  
 っ物さかしくとに下る  
 物をから ~~路~~ せむにるこの ~~が~~ 評書だ

ところから 妙かねをいかに中つて下る  
 横に引いた糸を一糸存りか二本存りか切か  
 たい 笑目凡一ぱう妙かね式を習った  
 妙かねのこに中つても ~~可~~と下つて下る  
 おく妙かねのこから中つて下る 草紙で  
 てみたら どりりもたぬだ

だがさといの了評君を愛するのほもアたい存し  
 くれでが子心しううとアつと思つていた  
 だがう何回も加減かくりテ一アで居あしといふ  
 何年経つていふのたうい  
 一たれ二年歳行アると手元に約三十年  
 アノたのたボロくいに存つても仕立存し  
 新らしいのを穿あう  
 大文でニアしむきとあつといふとかいてある  
 若い人はイニキ一系アトの時代それト  
 アノアでアすいアつアつたうう  
 私にそれトアしがある  
 アアアアアうこととあきめた  
 一週間ほどお礼を送らぬとくこと思ふ

2019  
4/25